

公務災害防止事業の推進

安全管理セミナーを実施して

福井県敦賀美方消防組合 敦賀消防団

1 はじめに

敦賀市^{つるがし}は、福井県のほぼ中央に位置し、北は敦賀港をいただいて日本海（若狭湾）に面し、他の三方は標高914mの野坂岳をはじめ、起伏した山々が連なって敦賀湾と平野部を囲んでいます。

東西約14km、南北約26km、面積は251.2km²、人口は68,762人（平成24年4月1日現在）で、若狭湾に大きく張り出した敦賀半島と約54kmに及ぶ海岸線が、敦賀湾を日本海の風や波浪から防ぎ、天然の良港を形成しています。

敦賀の地名の由来にはいくつかありますが、『日本書紀』には、崇神天皇の時代に朝鮮半島から「都怒我阿羅斯等」（ツヌガアラシト）が

この地に渡来したことにちなんで「角鹿^{つのが}」と呼ばれるようになったとあります。

必ずしも史実かどうかはわかりませんが、古くからの大陸との関わりを思わせる興味深い説話です。

和銅6年（713年）に「敦賀^{つるが}」という字に改められました。

日本三大松原の一つ名勝「気比の松原」は、敦賀湾の最奥部に位置し、海とのすばらしい景観を織り成しています。

天然の良港を擁する敦賀は、古代から朝鮮半島や中国大陸との交流が盛んで、古代三関の一つ「愛発^{あらかち}の関」や渤海国からの使節を迎えるための「松原客館」が置かれるなど、海陸交通の



敦賀市全景

要地でした。

近代になると、交通の要衝である敦賀に、日本海側で最初に鉄道が開通しました。また、明治32年(1899年)に開港指定されると、ロシア・朝鮮半島・中国といった対岸諸国と定期航路が開設されるなど、日本海側の主要な国際港湾都市として発展していきました。

本年は、敦賀－長浜間鉄道開通130年、敦賀－ウラジオストク定期航路開設110年及び欧亜国際連絡列車運行100年の節目の年に当たり、各種イベントが数多く開催され、山や海の大自然と港が育んできた温かい人情、そして、魚や野菜の新鮮な食材がみなさまをお迎えします。

2 敦賀消防団の沿革

敦賀消防団は、昭和45年11月1日に敦賀美方消防組合が発足すると同時に構成市町の敦賀市に組織されたもので、団員数320名(条例定員320名)で発足し、昭和57年に団員数270名(条例定員270名)と縮小改編しましたが、平成23

年4月1日に初の女性消防団員10名を任用し、団員数280名(条例定員280名)で、今年42年目を迎えました。

現在は、市内を10の分団で管轄し、機動力は普通消防ポンプ自動車14台、小型動力ポンプ付積載車7台、小型動力ポンプ1台を保有しており、これらの人員・装備で消防団活動を展開しています。

このような中、平成18年9月に敦賀消防団の新規事業として「敦賀消防団消防鳶隊」(愛称:つるが鳶)が結成されました。

消防鳶隊は、華麗で勇壮果敢なる「はしご乗り演技」をもって団員相互の団結と信頼及び士気を高め、消防団の活性化並びに消防団活動の強化を図るとともに、併せて市民の防火意識の高揚に資することを目的としています。また、この鳶隊結成には消防団のイメージアップを図り、若い方の消防団への入団希望につなげたいとの強い思いも込められています。

消防鳶隊の活動は、毎年1月に実施する敦賀



気比の松原

消防団出初式と9月に実施される敦賀市最大のイベントの一つである「敦賀まつり」の行事に積極的に参加する等、団員相互の団結と信頼及び士気を高めるだけでなく、市民に対しPRを行い消防団への理解を深めていただくよう活動しているところであります。

また、敦賀市はロシア連邦沿海州ナホトカ市と1982年10月に姉妹都市盟約を締結し、本年30周年を迎えるにあたり、日本の人々の暮らしを火災から守る勇敢な「火消し」の伝統と精神を、ナホトカ市のみなさまに広く紹介するため、「つるが鳶」隊が敦賀市訪口親善使節団の一員として本年7月下旬に派遣されることが決まっております。

当消防団では発足以来、定員割れこそしていませんが、後継者不足による団員の高齢化が進んでおり、更に魅力ある消防団としていくにはどうしたらいいか、また、若い団員をどのように確保していくかが今後の課題となっております。

3 安全セミナーを実施した経過

敦賀消防団においては、年間の行事計画に基づき各種訓練や講習会等を実施する際に必ず事故防止の徹底を周知しており、幸いにもここ数年公務災害は発生していませんが、全国的な公務災害の統計によると、団員数が減少の一途をたどっているにも関わらず、ここ数年は、公務

中に毎年1,200人を超える消防団員が負傷しており、5人前後の消防団員が亡くなっているのが現状です。

また、公務災害の発生場所については、主に平常時の演習訓練などで発生しており、死亡原因の約半数が心臓、脳血管疾患であり、日常の健康管理や運動がいかに大切であるかということのを再認識しました。

このような現状を踏まえ、当消防団では平成22年度に消防基金が共催する「S-KYT」研修を開催したところ、各団員の安全管理に対する意識が高く、好評であったため、引き続き平成23年度も消防基金の「安全管理セミナー」の開催をお願いいたしました。

4 安全管理セミナーを実施して

平成24年3月11日（日）消防基金S-KYT指導員の谷亜生氏を講師としてお迎えして、安全管理セミナーを敦賀美方消防組合消防本部3階講堂で敦賀消防団長以下団員61名の参加のもと開催しました。

冒頭、セミナーの開催日が昨年甚大な被害をもたらした東日本大震災の発生から丁度1年目に当たることから、犠牲者に対して黙祷を捧げ講習会に入りました。

今回のセミナーでは、全国で発生した団員の公務災害発生状況と推移、具体的な事故事例、事故に至った原因、事故発生後の対処法及び予



敦賀まつり



はしご乗り演技

防策等を大変分かりやすく講義され、受講者全員が真剣に受けていたのが印象的で、講習の時間が短く感じられる程でした。また、今回の講習で特に感じたことは健康管理が安全管理を考える上で、とても重要であるということ再認識させられました。

5 今後の取り組みについて

消防団は、地域防災の中核として、昼夜を問わず活動し、被害の拡大防止や、地域住民の安心・安全の確保に貢献しており、その支えとなっているのが、日頃の訓練と「自らの地域は自らで守る」という崇高な郷土愛護の精神です。また、消防団員は、地域に居住又は勤務する住民により構成され、地域に密着し、地理や住民の居住先等の地域情報を十分に把握しているため、大規模災害時には特に能力を発揮できると

考えています。

一方、平常時の活動としては、訓練のほか応急手当の普及指導や一般家庭の防火訪問の実施、広報紙の発行など、各地で活発な取組が行われています。

このように、消防団は地域における身近な消防防災のリーダーとして、地域の安全・安心のため重要な役割を担っています。

おわりに、今回のセミナーを実施して、受講者全員が改めて安全管理に対する認識を深めることができましたことに深く感謝申し上げます。また、今回参加できなかった団員に対しては、セミナーで使用したテキスト等を活用して、更なる安全管理の徹底を図りたいと考えております。平成24年度は、健康セミナーの実施を計画しています。



団長あいさつ



講師あいさつ(消防基金 S-KYT 指導員の谷氏)



受講者風景



講演風景